十一

遞信次官正四位勲二等犬塚勝太郎外
五名叙勲並勲章加授ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

大正三年三月二十七日

内閣總理大臣伯爵山本權兵衛

内閣

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

賞勲局達第五七號

大正三年三月廿七日

内閣書記官

内閣總理大臣

賞勲局總裁

遞信次官正四位勲二等犬塚勝太郎外五名敍勲並勲章加授ノ件別紙ノ通議定候條此段允裁ヲ仰ク

内閣

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一二

大正三年三月廿六日

賞勲局總裁

書記官

議定官

可

否

叙勲議案

逓信次官正四位勲二等大塚勝太郎

外五名

賞勲局

右ハ明治五年及同十五年丁抹國大北部電信會社ト對外電信ノ約定ヲ結ヒタル結果多年帝國對外電信ニ關スル利權ノ掣肘ヲ受ケ來リシカ帝國政府ハ夙ニ之カ利權ノ回復ヲ企圖シ明治四十年來着々其武歩ヲ進メ百數十回ノ樽俎折衝ヲ經客年ニ至リ右大北部電信會社、英國東部擴張電信會社及支那政府トノ協約成立ヲ告ケ對外電信ニ關シ多大ノ利權ヲ獲得スルニ至レル功勞顕著ナリトス依テ逓信大臣ノ上奏ヲ勘査シ勲等及

加授ノ勲章ヲ擬議スル左ノ如シ

追テ犬塚勝太郎ニ對シテ行政整理ニ關スル功ニ依リ金杯賜與ノ件允裁ヲ經タルモ本件ニ關スル功勞ト合併シテ特ニ頭書ノ通旭日重光章加授ヲ擬議候也

賞勲局

めくれず

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

授旭日重光章　遞信次官正四位勲二等　犬塚勝太郎

敘勲三等授瑞寶章　遞信省通信局長正五位勲四等　田中次郎

授雙光旭日章　樞密院書記官從五位勲五等　二上兵治

敘勲六等授單光旭日章　遞信書記官正七位　渡部信

敘勲五等授瑞寶章　遞信局副事務官從六位勲六等　牛澤爲五郎

敘勲六等授瑞寶章　遞信書記官兼遞信大臣秘書官從六位　村上恭一

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

勲二等旭日章　逓信次官　勲二等　従四位　犬塚勝太郎
勲三等瑞寶章　逓信省通信局長　勲四等　従五位　田中次郎
勲五等旭日章　枢密院書記官　勲五等　従五位　二上兵治
勲六等旭日章　逓信書記官　従七位　渡部信
勲五等瑞寶章　逓信局副事務官　勲六等　従六位　牛澤為五郎
勲六等瑞寶章　逓信書記官兼逓信大臣秘書官　従六位　村上恭一

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

明治三年及同十五年丁抹國大北部電信會社ト始メテ對外電信ノ約定ヲ結ヒ爾來同會社ノ為獨占對手ノ受クルコトト為リシヲ以テ帝國政府ハ屢々電信利權ノ擴張シ圖リシモ不幸ニシテ其ノ成果ヲ收ムルニ至ラサリシカ今回右大北部電信會社、英國東部擴張電信會社及支那政府トノ協約成立ニ依リ茲ニ始メテ多年ノ目的ヲ成就シタルハ誠ニ帝國ノ為慶賀ニ堪ヘサル所ナリ今其ノ交渉ノ顛末ヲ略叙スレハ明治十五年十二月二十八日大北部電信會社ニ附與シタル帝國政府ノ免許狀ハ大正元年十二月二十八日ヲ以テ其ノ期間滿了スヘキモノナルモ同會社ハ帝國ノ對岸タル支那及露西亞ニ對シテハ尚今後十數年ニ亘リ電信聯絡ノ獨占權ヲ有シ帝國ハ之カ為多大ノ羈絆ヲ蒙リ甚シキ不利ノ地位ニ

在ルヲ以テ帝國政府ハ詠免許狀期
間ノ滿了ニ先チ夙ニ其ノ滿期以後ノ狀
態ヲ豫想シテ協約ヲ締結スルノ必要ナ
ルコトヲ認メ明治四十年及同四十一
年ノ交會社ノ代表者ヲ東京ニ招致
シテ當省當局者トノ間ニ前後數月ニ
亘リテ交渉ヲ重ネタルモ遂ニ何等ノ
解決ヲ見スシテ交渉ヲ斷絶スルノ止ム
ヲ得サルニ至レリ作去詠商議中彼
我ノ間互ニ意見ヲ交換シ延ヲ以テ今
次ノ協商ニ資シタルコト亦少カラサル
ナリ

越エテ明治四十三年八月韓國カ併合
セラレテ帝國ノ一部ト為ルヤ小茂田
（對馬）釜山間ノ海底電信線ヲ從前ノ
通リ前記大北部電信會社ノ所有ニ
屬セシムルコトハ帝國ノ領土内ニ外國ノ
電信系ヲ認ムルコトト為リ時局ノ發
展ニ伴フヘキ施設經營ヲ妨クルノシ
ラス電信國營ノ本義ニ背馳シ帝國

ノ體面ヲ損傷スルノ虞アルニ依リ當時會社ノ代表者ノ來京ヲ機トシ當省當局者ニ於テ該海底電信線ノ買收ヲ交渉シ數次ノ會見ヲ重ネ反覆商議シ遂ケタル結果遂ニ同年十月十八日右買收ニ關スル契約書ノ調印ヲ見ルニ至レリ此ノ契約ニ依レハ帝國政府ハ何等新ナル義務ヲ負擔スルコトナクシテ右海底電信線買收ノ目的ヲ遂行スルコトヲ得タルノミナラス其ノ買收價格モ會社ノ免許狀ノ殘餘期間ニ對スル利潤ヲ外ニシ單ニ大體其ノ數設實費ヲ標準トシ算出シタル金十六萬圓ニ過キスシテ頗ル有利ノ條件ヲルコトヲ疑ハス該契約ノ結果帝國政府ハ日鮮間電信聯絡ノ自由ヲ獲得シ延テ日露戰役中數設シタル數條ノ海底電信線ヲ公開スルコトト為リ茲ニ韓國併合ニ伴フ必然ノ要務ヲ果ス

之ト共ニ前記大北部電信會社ノ免許狀期間滿了ノ時日モ漸ク近ケルヲ以テ明治四十五年三月當省内ニ對外電信事務調査會シ設ケ帝國ノ對外電信政策殊ニ同會社トノ交渉ニ資スヘキ事項ニ付詳細ナル査究ヲ遂ケ尚外務省及在外公館ノ盡力ニ依リ又國際無線電信會議ニ參列セル帝國委員ノ手ヲ經テ海外ノ實例ヲ調査シ諸般ノ準備略々整フニ及ヒ交渉ノ方針ニ付閣議ノ決定ヲ經同年七月大北部電信會社ノ代表者ヲ東京ニ招致シテ商議ヲ再開スルニ至リ爾來公式ノ會見ヲ為スコト十七回非公式ノ會見ヲ為スコト十數回其ノ間幾多ノ困難ニ逢着シテ屢々談判不調ノ情況ナキニ非サリシモ極力盡瘁ノ結果遂ニ大正元年十二月三十一日當省當局者ト會社代表者トノ間ニ將來協約スヘキ本問題ニ付討議ノ要目タルヘキ事項ノ大體

ニ関シ豫備約定ヲ作成スルニ至レリ
本約定ハ最終約定ノ成立並ニ関係
政府及會社ノ同意ヲ條件トセルモノナリ
當局ニ於テハ同時ニ支那政府トノ関
係ヲ顧慮シ外務省ト熟議ヲ重ネタル
末大正二年一月十七日北京ニ於テ支
那駐劄帝國公使ト支那政府トノ間ニ
三箇ノ秘密覺書ヲ交換シテ日支両國
間電信問題ノ基礎ヲ定ムルコトヲ得タリ
本問題ニ関スル交渉カ前記ノ進捗ヲ
見タルヲ以テ更ニ進テ東部擴張電
信會社ト協商ヲ開始スルノ必要ヲ認
メ且大北部電信會社ト最終約定ヲ完
結スル為尚幾多協商ヲ要スルモノアリ
シヲ以テ其ノ後當局者ヲシテ引
續キ大北部電信會社代表者ト商議
ヲ進行セシメ又同時ニ東部擴張電
信會社代表者ヲ參加セシメ且
新ニ支那政府ノ代表者ヲ東京
ニ招致シテ之ト商議ヲ開始セシメ大

北會社ニ對シテハ前掲豫備約定ニ準據シ支那政府ニ對シテハ前掲覺書ヲ以テ基本ト為シ免許狀ノ更正及協約ノ締結ニ付日夜協議ニ協議ヲ重ネ公式ノ會見往復ヲ為スコト約百回非公式ノ會見往復ヲ為スコト又數十回交渉屢々困難ニ陥リタルニ拘ラス苦心慘澹ノ結果大北東部兩會社ノ種々ナル不當ノ要求ニ對シ能ク之ヲ排斥シテ豫備約定ノ範圍ヲ踰越スルコトヲ防キ其ノ他免許ノ條件約定ノ施行等ニ付更ニ有利ノ事項ヲ承認セシメ又支那政府ノ委員カ幾多ノ難澁ナル題目ヲ提出シテ之カ維持ニ努メタルニ對シ反覆討議名狀スヘカラサル困難ヲ經テ略々當方ノ主張ヲ貫徹シ樽俎折衝八閲月ノ後遂ニ本年八月二十三日附ヲ以テ大北部電信會社ニ海底電信線ノ運用ニ関スル條正免許狀ヲ交付シ且帝國政府及大北部電信會社間

茲ニ帝國政府及大北部電信會社東部擴張電信會社間ニ電信聯絡及料金低減ニ関スル数箇ノ協約ヲ締結シ同十月四日付ヲ以テ帝國政府及支那政府間ニ海底電信線ノ陸揚及日支両國間通聯電報ノ料金低減ニ関スル協定ノ成立ヲ告ケ茲ニ最終約定ノ決定ヲ見ルニ至レリ今其ノ效果ノ大要ヲ摘記スレハ左ノ如シ

第一　大北部電信會社關係事項

(一)　帝國政府ニ於テ長崎ヨリ上海ニ至ル海底電信線一條ヲ敷設シ其ノ一端ヲ在上海帝國郵便局ニ引込ミ日支両國官報及假名電報ヲ取扱フコトニ同意セシメタリ

本件ハ既ニ支那政府ノ同意ヲ得タルモノニシテ之カ為平時外交及通商上ノ發展ヲ助長スルコト多大ナルノミナラス一朝有事ノ際帝國電信系運用ノ妙實ニ測

知スヘカラサルモノアリ

(二) 浚水川石山間ノ帝國海底電信線ニ聯絡スル為帝國政府ニ於テ該海底線ノ一端ト在福州帝國郵便局トノ間ニ陸上電信線ヲ建設スルコトニ同意セシメタリ

(三) 帝國ト露國トノ間ニ直接ニ電信線ヲ聯絡シ且両國隨意ニ其ノ料金ヲ協定スルコトニ同意セシメタリ即チ満洲、朝鮮、樺太ノ各地ニ於テ直接日露電信系ノ通聯ヲ行ヒ且低廉ナル料金ヲ定ムルニ至ラハ両國間外交上及通商上ノ利便決シテ僅少ナラサルナリ而シテ本件ハ露國政府ニ於テモ亦希望スル所ナルコトヲ確メタルカ故ニ右電信聯絡ノ實現ヲ見ルコト蓋シ遠キニ非サルヘシト信ス

(四) 歐洲其ノ他各地(米國ヲ除ク)ニ至ル電

報料金ヲ低減セシメ特ニ會社線
條ノ経行料金ヲ著シク値引セシ
メ且日露間料金ヲ大ニ低減セシ
メタリ

(五) 長崎上海間ノ新海底電信線ノ
竣成ニ至ル迄従来ノ會社線一條
ヲ無償ニテ當方ノ使用ニ供スル
コトニ同意セシメタリ

(六) 日支両國間ノ電報取扱ヨリ生
スル彼我新舊線條ノ料金収入ハ
關係當事者間ノ合併計算ノ制ニ
依リ一定ノ率ヲ設ケテ之ヲ分配
シ互ニ其ノ利益ヲ害セサルコト
ニ同意セシメタリ

(七) 芝罘大連線及淡水川石山線ヲ以
テ日支両國間ノ通信ニ開放スル
コトニ同意セシメタリ

(八) 將来會社ノ収入カ或額ニ増加
シタルトキハ累次料金ヲ低減ス
ル為其ノ逓減方法ヲ約定シタリ

(九) 従来ノ免許状ノ字句ヲ改訂シ且帝國ニ有利ナル数多ノ條項ヲ挿入シテ修正免許状ヲ作成セリ

第二 東部擴張電信會社関係事項

(一) 淡水川石山線ヲ世界通信ニ開放シ日本内地ヨリ世界各地ニ至ル通信ニ利用スルコトヲ兼認セシメタリ

(二) 前記上海海底線及福州陸線ノ建設ヲ承認セシメタリ

(三) 電報料金ノ大低減ヲ断行セシメ歐洲濠洲其ノ他各地(米國ヲ除ク)ニ至ル一般的電報料金ヲ著シク低減セシメタリ其ノ結果大北部電信會社ノ關係ト相待チテ帝國政府ノ歳出ニ屬スル電報料金ハ年額約六十萬圓ヲ減少シ一般公衆ノ負擔ニ屬スル電報料金ハ年額百數十萬圓ヲ減少スルカ故ニ一般ノ利便及通商ノ發達ニ裨益スル

所甚大ナルハ言ヲ須ヒサルナリ

(四) 小笠原線ヲ経テ西廻スル電報ヲ取扱ハシムルコトトシ其ノ料金ヲ協定シ且料金均一ノ制ヲ承諾セシメタリ

第三 支那政府関係事項

(一) 本年一月北京ニ於テ交換シタル三箇ノ覺書ハ帝國ノ對支電信政策ノ根底ヲ確定シタルモノニシテ殊ニ支那政府カ將来第三者ニ何等カ電信上ノ特權ヲ附與又ハ擴張セムトスルトキ豫メ帝國政府ヘ協議セシムルコトト為シタルハ帝國政府ノ地歩ヲ保障シ支那政府ノ行動ヲ掣肘スル緊切ノ要件ナリ

(二) 海底電信線上海陸揚ノ約定ハ協商頗ル困難ナリシモ大體他國政府及他會社ノ例ヲ按照シテ有利ニ之ヲ協定セリ

(三)

満洲及芝罘ノ電報料金ヲ互ニ低減スルコトヲ協定セリ而シテ其ノ低減割合ハ帝國ニ於テ比較的有利ナルコトヲ得タリ

之ヲ要スルニ今次協約ノ成立ニ依リテ帝國政府ノ獲得シタル利権ハ第一上海新海底線及福州陸線ノ建設第二日露両國間ノ電信聯絡第三世界電報料金ノ大低減第四淡水川石山線芝罘大連線及小笠原線ノ利用擴張第五對支電信ノ約束等ニシテ是レ實ニ將来ノ帝國對外電信政策上重要ノ基礎ヲ成シ茲ニ該政策ノ新紀元ヲ劃スルモノト云フヘシ而シテ前後數年ニ亘レル本件解決ニ關與セル職員ハ或ハ準備ニ或ハ交渉ニ其ノ心労實ニ名狀スヘカラス其ノ功績誠ニ没却スヘカラサルモノアリ仍テ別紙各員ニ對シ其ノ功績ヲ表彰スル名頭書ノ通特別行賞ヲ賜リ度

別紙各員ノ中逓信次官犬塚勝太郎ハ大正二年二月就任以来前任者指置ノ後ヲ承ケテ鋭意協商ノ進捗ニ盡力シ周到ナル注意ヲ以テ上司ヲ輔ケ下僚ヲ導キ苦心惨憺至ラサル所ナク遂ニ能ク今次協約ノ成立ヲ完成シテ帝國對外電信政策上ノ成功ヲ博シ且對外電信事務調査委員長トシテ委員ヲ指導督勵シ其ノ效果ヲ擧ケシメタル等其ノ功績最モ大ナリ

逓信省通信局長田中次郎ハ明治四十一年二月乃至同四十二年二月ノ間逓信書記官ヲ以テ通信局外信課長在職中本件交渉ニ關與シ明治四十三年四月乃至同四十四年九月ノ間逓信省參事官在任中釜山線買收ノ協商ニ參與シ尋ヲ明治四十四年九月現官就任以来逓信次官ヲ輔ケ部下職員ヲ率ヒテ親シク今次商議ノ局ニ當リ極力盡瘁ノ結果遂ニ滿足ナル

協約ノ成立ヲ告ケレメテ帝國對外電信政策上ノ成功ヲ博シ且對外電信事務調査副委員長トシテ同委員長ト共ニ當詠調査ヲ進捗セシタル等其ノ功績眞モ大ナリ

樞密院書記官二上兵治ハ明治四十四年六月迄逓信省參事官在任中職ヲ逓信局外信課長ニ奉シ明治四十年六月以降終始本件商議ニ直接關與シテ能ク今次協約成立ノ素地ヲ完成シタルノミナラス明治四十三年釜山線買収ノ際上司ヲ輔ケテ親シク其ノ衝ニ當リ成功ヲ博セシメタル等其ノ功績頗ル大ナリ

逓信書記官浅部信ハ明治四十三年七月以降逓信局外信課ニ勤務シ尋テ同四十四年六月同課長ニ進ミ終始本件商議ニ關スル事務ヲ掌リ上司ト共ニ親シク今次協商ノ衝ニ當リ遂ニ滿足ナル協約ノ成立ヲ見ルニ至

ラシメ且對外電信事務調査委員
トシテ當該調査ニ盡瘁シタル等其ノ
功績頗ル大ナリ
逓信局副事務官牛澤為五郎ハ夙ニ
職ヲ通信局外信課電信係長ニ奉シ
明治四十年六月以降終始本件商議
ニ關スル事務ヲ掌リ毎次ノ商議ヲ
幇助シテ常ニ其ノ效果ヲ擧ケ遂ニ今
次ノ滿足ナル協約ノ成立ヲ見ルニ至
ラシメ且對外電信事務調査委員ト
シテ當該調査ニ盡瘁シタル等其ノ
功績頗ル大ナリ
逓信書記官村上恭一ハ明治四十一年
二月乃至同四十三年七月ノ間職ヲ
通信局外信課ニ奉シ終始本件商
議ニ關スル事務ヲ掌リ拮据勵精能
ク今次協約成立ノ素地ヲ作リ且明治
四十五年四月以降對外電信事務
調査委員トシテ當該調査ニ盡瘁シ
タル等其ノ功績頗ル大ナリ

以上ノ理由ヲ具シ別紙各員履歴書六通相添ヘ謹テ奏ス

大正二年十一月七日

遞信大臣 元田肇

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

官秘發第二八三五號ノ一

大正二年十一月七日

逓信大臣 元田 肇

内閣總理大臣伯爵山本權兵衛殿

別紙逓信次官犬塚勝太郎以下
大名特別行賞之件上奏書進
達ス

追ヲ本年二月十五日附ヲ以テ前
任大臣ヨリ本件關係者特別行賞
之件上奏書進達シタルモ當時該
交渉未タ結了セサリシ際
ニ有之今回茲ニ最終約定ノ決定
ヲ見其ノ完結ヲ告ケタル次第ニ
付改メテ關係者ニ對シ特別行
賞ノ件上奏書進達候條至急
詮議相成度候

138

位勲爵 博士 正四位勲二等

氏名 犬塚勝太郎

印 實

府縣族籍

戸主又ハ戸主トノ續柄

書籍

生年月日 明治元年三月

產地

舊氏名

原籍 東京市麹町區飯田町五丁目三十三番地

現住所

年	月	日	事項	官廳
明治三十年	九月	三日	叙正四位	宮内省
〃四十二年	四月	一日	高等官一等俸給金拾圓	
			年俸金三千七百円下賜セラル	
	九月	十日	任長崎縣知事	内閣
			叙高等官一等	
			一級俸下賜	内務省
〃四十三年	六月	四日	任大阪府知事	内閣
			叙高等官一等	

履歴用紙

逓信省

年	月	日	事項	官廳
			一級俸下賜	内務省
大正元年	十二月	十六日	叙勲二等授瑞寶章	賞勲局
	十二月	廿日	文官分限令第十條第一項第四號ニ依リ休職被仰付	内閣
〃二年	一月	十七日	依願免本官	内閣
	二月	十四日	任逓信次官	内閣
			叙高等官一等	
	三月	十六日	逓信省官制第二條ニ依リ逓信省所管事務政府委員被仰付	内閣

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

位勳爵	氏名	賞印
博士	田中次郎	

戸主又ハ戸主トノ續柄	生年月日	産地	舊氏名
愛媛縣士族	明治六年十月十三日	副島次郎	

戸籍謄本抄本	原籍	現住所
	愛媛縣北宇和郡宇和島町	

年號	月	日	任免賞罰其他事項	官廳
明治廿年	七月	十五日	東京帝國大學法科大學卒業	逓信省
			任逓信属	
			給四級俸	
			電務局勤務ヲ命ス	
	十月	一日	判任官待遇ニ改正	
			五級俸ヲ給セラル	
			任逓信書記	
			給五級俸	

履歴用紙　逓信省

年	月	日	任免賞罰	官廳
			當分ノ内逓信局勤務ヲ命ス	
廿三年	五月	十五日	任逓信事務官	内閣
			叙高等官七等	
			八級俸下賜	逓信省
			東京郵便電信局監理課長兼	
			外国郵便課長ヲ命ス	
	六月	廿日	叙從七位	宮内省
	三月	六日	東京郵便電信局外国郵便課長	
			兼務ヲ免ス	
	十二月	八日	七級俸下賜	
廿三年	七月	五日	東京郵便電信局外国郵便課長	
			兼務ヲ命ス	
	十月	廿七日	東京郵便電信局外國郵便課長	
			兼務ヲ免ス	
	十二月	廿一日	任東京郵便電信學校教授兼	
			逓信書記官	内閣

めくれず

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

	叙高等官六等	
	一級俸下賜	逓信有
	通信局電務課勤務ヲ命ス	
仝廿年三月廿日	任京城郵便局長	内閣
	叙高等官六等	
	一級俸下賜	逓信有
四月廿日	叙正七位	宮内有
仝廿五年五月一日	任京城郵便電信局長	内閣
	叙高等官六等	
	一級俸下賜	逓信有
七月十八日	任通信事務官兼京城郵便電信局長	内閣
	叙高等官六等	
	四級俸下賜	逓信有
仝廿六年一月廿九日	韓国皇帝陛下ヨリ贈典ニタル	
	壁壽叮五十年祝慶記念銀章ヲ	

履歴用紙

逓信省

仝三十年四月一日	官制改正	
	受領ノ及ビ佩用スルヲ允許ス	賞勲局
	任通信事務官	内閣
	叙高等官六等	
	四級俸下賜	逓信有
	京城郵便局長ヲ命ス	
十月五日	陞叙高等官五等	内閣
	三級俸下賜	
仝廿七年三月廿九日	叙従六位	宮内有
七月十二日	韓国皇帝陛下ヨリ贈典ニタル	
	勲四等太極章ヲ受領シ及	
	佩用スルヲ允許ス	賞勲局
仝廿八年八月八日	二級俸下賜	逓信有
仝廿九年一月十日	逓信局勤務ヲ命ス	
	郵便電信事業研究ノ為メ満	
	一年佛国ヘ留学ヲ命ス	

逓信省総務局印刷

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

		佛国ニ留学中ノ者ニ命ス			
		賜勲			
	四月一日	明治三十七年事件ニ功績ノ顕			
		著ナル軍人及従軍人ニ			
		授ケ勲章ヲ賜フ	宮内	鉄道	内閣
	同三日	陸軍高等官四等	内閣		
		一級俸下賜	逓信		内閣
	同四日	従五位	宮内	内閣	
任免	同七日	逓信書記官	内閣		
		従高等官四等			
		二級俸下賜	逓信		内閣
		逓信局事務課長ヲ停ス			
任免	同十三日	逓信局外信課長逓信書記官ニ			
		任ス 従来任中代理ヲ停ス			
	同十四日	兼外務書記官	内閣		
		従高等官四等			

履歴用紙　　逓信省

	同十六日	陸軍高等官三等	内閣		
		一級俸下賜	逓信		内閣
任免	同十七日	従五位	宮内	内閣	
	同十七日	逓信局郵便博物館長兼務			
		ヲ停ス	逓信		内閣
任免	同二十日	高等官三等ニ任ス			
		逓信省書記官	内閣		
		従高等官三等			
		一級俸下賜	逓信		内閣
		大臣官房臨時課長ヲ停ス			
		逓信博物館長兼務ヲ停ス			
	仝 十日	兼任陸軍参謀本部編纂課員	内閣		
		従高等官三等			
	同廿日	陸軍高等官三等（法務書記官）			
	同廿三日	大臣官房文書課長兼務ヲ			
		停ス	逓信		内閣

八月廿一日	普魯西國皇帝陛下ヨリ贈與セラル	
	王冠第二等勲章ヲ受領シ及	
	佩用スルヲ允許セラル	賞勲局
十月廿八日	叙高等官二等	内閣
	大臣官房監理課長心得兼逓	
	信博物館長心得大臣官房文	
	書課長心得ヲ命ス	逓信省
仝四十年三月十日	叙正五位	官内省
六月廿六日	叙勲四等 旭瑞寶章	賞勲局
八月六日	任逓信省逓信局長	内閣
	叙高等官二等	
仝四十五年三月六日	清国皇帝陛下ヨリ贈與シタル	
	三等第二雙龍寶星ヲ受領シ	
	及佩用スルヲ允許セラル	賞勲局
四月十三日	佛蘭西共和国政府ヨリ贈與シタ	
	ル「コマンドール、ロートル、サシヨナル、ド、	

履歴用紙

逓信省

	ラ、レジヨン、ドール」勲章ヲ受領、	
	シ及佩用スルヲ允許セラル	賞勲局
四月十七日	対外危信事務調査會副委員長	
	ヲ命ス	逓信省

逓信省統計局印刷

めくれず

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

位勲等 正六位勲五等　氏名 二上兵治

博士

府縣族籍 富山縣平民　生年月日 明治十年二月廿五日

戸主又ハ戸主トノ續柄　居地

書籍　筆頭者氏名

原籍 富山縣高岡市縄手中町六番地

現住所

年號月日　任免賞罰　其他事項　官廳

明治三十年七月一日　東京帝國大學法科大學卒業

同　月　十六日　任通信属　通信省

給四級俸

当分ノ内通信局勤務ヲ命ス

十一月一日　東京郵便局無務ヲ命ス

仝三十八年四月一日　東京郵便局小包郵便課長心得ヲ命ス

十月十六日　任通信事務官　内閣

履歴用紙　遞信省

叙高等官七等

八級俸下賜　通信省

東京郵便局小包郵便課長ヲ命ス

六月廿四日　東京郵便局郵便課長兼軍事郵便課長ヲ命ス

六月廿六日　東京郵便局軍事郵便課長兼務ヲ免ス

七月廿日　叙従七位　宮内省

十月一日　通信局外信課兼法規課勤務ヲ命ス

仝三十九年一月十六日　通信局外信課長ヲ命ス

四月一日　明治三十七八年事件ノ功ニ依リ勲六等單光旭日章及金四百円ヲ授ケ賜フ　賞勲局

四月廿三日　七級俸下賜　通信省

144

七月十四日　兼任逓信省参事官　内閣
叙高等官七等
七月廿日　六級俸下賜　逓信省
十月廿日　任逓信省参事官兼逓信書記官　内閣
叙高等官七等
八級俸下賜　逓信省
通信局外信課長ヲ命ス
十二月廿七日　陞叙高等官六等　内閣
七級俸下賜　逓信省
左四十年二月十日　叙正七位　宮内省
十月十日　六級俸下賜　逓信省
左四十年十二月廿日　陞叙高等官五等　内閣
五級俸下賜　逓信省
左四十三年三月十日　葡萄牙國皇帝陛下ヨリ
贈呈シタル「コンマントール、ト、ロ
履歴用紙　逓信省
ル、ト、ル、ロアヤルミリテル、ド、ノート
ルタム、ド、コンセプシヨン、ド、ウヤ
ラ、ウヤシオサ、勲章ヲ受領
シ及佩用スルヲ允許ス　宮内省
三月廿日　叙従六位
八月廿七日　逓信書記官影山銑三郎
不在中通信局庶務課長
代理兼務ヲ命ス
十二月十三日　大臣官房監理課兼務ヲ命ス　逓信省
左十三年四月一日　高等官等俸給令改正
大臣官房文書課兼秘書
課勤務ヲ命ス
五級俸下賜セラル
七月廿日　四級俸下賜
九月三日　大臣官房秘書課長兼務ヲ

逓信省印刷局印製

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

命ス
任樞密院書記官
叙高等官四等
内閣

三級俸下賜
樞密院

八月十日叙正六位
宮内省

二月廿日叙勲五等授瑞寶章
賞勲局

大正元年十二月十日
二級俸下賜
樞密院

履歴用紙

遞信省

遞信省經理局印刷

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

位勲爵 博士

氏名 渡部信 印 實

府県族籍 栃木県士族

戸主又ハ戸主トノ続柄

生年月日 明治十七年八月十六日

旧藩 旧氏名

原籍 栃木県下都賀郡壬生町

現住所

年	月	日	任免賞罰其他事項	官庁
明治三	七	十二	東京帝國大學法科大學卒業	
	同	十八	任通信属	通信省
			従五級俸	
			通信局外信課勤務ヲ命ス	
仝四十三	四	十七	任通信事務官	内閣
			叙高等官七等	
			七級俸下賜	
			東京郵便局監理課勤務	通信省

履歴用紙

遞信省

ヲ命ス

六月十二日 叙従七位 宮内省

仝四十三年四月一日 官制改正

通信管理局事務官高等官七等ニ任叙七級俸下賜セラル

横濱通信管理局経理部長ヲ命ス

通信省

七月十六日 通信局外信課兼業務課勤務ヲ命ス

八月十六日 通信官吏練習所兼務ヲ命ス

仝四十四年六月十九日 通信書記官任通信書記官 内閣

叙高等官六等

七級俸下賜

通信局外信課長ヲ命ス

通信官吏練習所教官兼務ヲ命ス

同十五年一月四日	東京帝國大學法科大學講師ヲ嘱託ス	宮内省
一月十五日	逓信官吏練習所教官兼務ヲ免ス	東京帝國大學法科大學
同十七日	對外電信事務調査委員ヲ命ス	逓信省
大正元年十月廿日	六級俸下賜	

履歴用紙　逓信省

逓信省総務局印刷

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

訂　正

訂正理由	撮影ミスの為
訂正個所	直前の　　／コマ取消 ／コマ再撮影
訂正年月日	平成 20 年 9 月 26 日

このフィルムは、上記の理由で取消又は再撮影し訂正しました。

撮影者　田島 清治　田島 印

受託責任者　東京都港区西麻布2丁目26番30号
富士フイルム株式会社
産業機材部長
後藤佳久　印

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

同年一月四日	從七位	宮内省
	東京帝國大學法科大學講師ヲ嘱託ス	東京帝國大學法科大學
一月十五日	遞信官吏練習所教官兼務ヲ免ス	遞信省
同十七日	對外電信事務調査官ヲ命ス	
大正元年十月廿一日	六級俸下賜	

履歴用紙　遞信省

遞信省經理局印刷

めくれず

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

位勲爵
博士

氏名 牛澤宮五郎

印 實

府縣族籍 東京府平民

戸主又ハ戸主トノ續柄

生年月日 慶應三年九月十五日

舊藩

原籍

産地

現住所

舊氏名

年號	月日	任免賞罰其他事項	官廳
明治十五年	十月十日	任工部書記 月給金十円	
仝十六年	一月廿三日	横浜電信局在勤中分課事	電信局
	三月六日	月給金拾弐円下賜候事	工部省
仝十七年	三月一日	月給金拾四円下賜候事	
仝十八年	三月廿日	任工部九等技手 月給拾八円	
	十二月六日	神戸分局在勤中分課事	
仝十九年	十二月廿六日	工部省被廃	
		第宮ノ部下心得ヘキ旨被達	

履歴用紙

逓信省

仝廿九年	二月一日	長崎電信局在勤中分	
	五月廿七日	叙判任官九等給中級俸	
	十二月一日	長崎郵便電信局在勤	
仝卅一年	四月廿五日	兼任郵便電信書記	
		叙判任官八等	
		長崎郵便電信局在勤ヲ命ス	
仝卅二年	七月十五日	官制改正	
		書記任命ノ通相心得ヘキ旨被達	
	九月廿日	任逓信技手	
		兼郵便電信書記如故	
		叙判任官八等給中級俸	
仝卅三年	三月廿四日	判任官五等ニ叙セラル（兼官資格）	
	七月一日	逓信技手判任官五等ニ任叙上級俸ヲ	
		給セラル	
	七月十七日	電信技手判任官五等ニ任叙上級俸ヲ	
		給セラル	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

十二月六日　元第官

仝廿四年八月十六日　官制改革

郵便電信局技手ニ任シ七級俸ヲ給セラル

〃

仝廿六年六月十日　給六級俸

十月十日　官制改正

任郵便電信書記

給六級俸

長崎郵便電信局在勤ヲ命ス

仝廿九年四月十五日　給五級俸

仝廿年二月三日　長崎郵便電信局電信課長ヲ命ス

八月十八日　官制改正

通信書記ニ任シ五級俸ヲ給シ長崎郵便電信局電信課長ヲ命セラル

十月廿四日　給四級俸

仝廿一年五月三日　当分ノ間電信局勤務ヲ命ス

履歴用紙

遞信省

十一月一日　制令官俸給令改正

正級俸ヲ給セラル

当分ノ間通信局勤務ヲ命ス

十二月廿四日　給四級俸

仝廿三年六月廿五日　給三級俸

仝廿五年七月十八日　給二級俸

十二月廿八日　明治三十三年清国事変ニ際シ勲ノ

金五拾円ヲ賜フ

実勲局

仝廿六年四月一日　官制改正

通信書記ニ任シ二級俸ヲ給シ通信局

勤務ヲ命ゼラル

四月十日　叙従七位

六月廿六日　叙勲八等授瑞宝章

十二月五日　通信官署官制改正

通信属ニ任シ二級俸ヲ給シ通信局勤

務ヲ命ゼラル

仝廿七年七月十一日	従一級俸		
十一月廿三日	兼任東京郵便電信学校教授	内閣	
	叙高等官七等		
仝廿八年三月廿一日	東京郵便電信学校教官制廃止		
八月十八日	通信官変練習所教官ニ付兼務ノ命ス		
仝廿九年四月一日	明治廿七八年事件ノ功ニ依リ勲七等ニ叙シ		
	金桐葉章及年金六十円ヲ授ケラル		
八月二日	任通信事務官補	内閣	
	叙高等官七等		
	三級俸下賜	逓信省	
	東京郵便局電信課主幹ノ命ス		
	兼任通信局勤務ノ命ス		
	通信局勤務ノ命ス		
	通信官変練習所教官ニ付兼務ノ		
	命ス		
十一月廿日	東京郵便局電信課勤務ノ命ス		

履歴用紙　　逓信省

仝卅年十月十六日	陞叙高等官六等	
	二級俸下賜	
十二月十日	叙正七位	
仝卅一年二月十五日	従四位三等伊藤公爵ニ随行ス	
二月廿三日	出発	
六月廿五日	叙勲六等授瑞宝章	
九月九日	帰朝	
仝卅二年一月廿一日	従四位之清国ヘ被差遣	
一月廿八日	出発	
四月七日	一級俸下賜	
十月十三日	通信官変練習所教官ニ付清国ヘ	
仝卅三年三月廿一日	免兼官	
四月一日	官制改正	
	通信官警官補高等官六等ニ任叙一	
	級俸下賜ヒラル	
	通信局勤務ノ命ス	

仝四十五年	六月十九日	任通信事務官
		五級俸下賜
		通信局外信課勤務ヲ命ス
	七月十八日	四級俸下賜
仝四十五年	二月六日	清國皇帝陛下ヨリ勲典ノ九三等第
		一双龍章ヲ受領シ且ツ佩用スルヲ允
		許ス
	四月十七日	對外電信事務調査委員ヲ命ス

寅勲局

履歴用紙

遞信省

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

位勲爵 博士 従六位

氏名 村上泰一

戸主又ハ戸主トノ続柄 戸主ノ長男

生年月日 明治十六年八月三十一日

産地 鳥取縣鳥取市中町

舊藩 鳥取縣士族

原籍 鳥取縣鳥取市立川町二丁目百五十一番地

現住所

賞罰其他事項

官廳

年	月	日	任免
明治十年	七月	十二日	東京帝國法科大學法律學科（佛蘭西法律兼修）卒業
仝	七月	十二日	王通信（佛蘭西）ノ通信書記官
			仝四級俸
			通信局勤務ヲ命ス
	七月	十五日	外信課詰ヲ命ス
	十月	廿五日	文官高等試験合格證書授與
仝十二年	二月	四日	任通信事務官

履歴用紙

年	月	日	叙高等官七等	内閣
			七級俸下賜	通信省
			通信局外信課勤務ヲ命ス	
	四月	十日	叙從七位	宮内省
	十月	廿六日	六級俸下賜	通信省
仝四十二年	十月	廿三日	陞叙高等官六等	内閣
			五級俸下賜	通信省
	十月	十三日	兼任通信書記官	内閣
			叙高等官六等	〃
			通信官吏練習所教官ヲ命ス	
	十月	廿七日	叙正七位	通信省
仝四十三年	四月	一日	官制改正	宮内省
			通信管理局事務官高等官六等ニ任叙五級俸下賜通信局外信課勤務ヲ命セラル	

遞信省

兼官如故

153

七月十六日　免本官専任逓信書記官　内閣
七級俸下賜　逓信省
逓信官吏逮捕所監理課勤務ヲ命ス
逓信官吏逮捕所教官兼務ヲ命ス

明治四年　六月十九日　六級俸下賜
任逓信省参事官兼逓信書記官　内閣
敘高等官六等
六級俸下賜　逓信省
大臣官房秘書課長ヲ命ス（兼事官ノ資格）
文官普通試験ニ成績良ノ者ヲ命ス

九月二日　任逓信大臣秘書官兼逓信省参事官　内閣
敘高等官六等
六級俸下賜　逓信省
逓信省勤務ヲ命ス（兼事官ノ資格）

八月十五日　対外電信事務調査掛委員ヲ命ス

履歴用紙　　逓信省

外命ス（憲法ノ資格）

七月十二日　陞敘高等官五等
五級俸下賜　内閣
逓信省
宮内省

大正元年　九月三日　敘従六位
十月十三日　任逓信書記官兼逓信大臣秘書官　内閣

敘高等官五等
五級俸下賜　逓信省

大正二年　一月十四日　大臣官房秘書課長ヲ命ス
逓信省監局勤務ヲ命ス
対外電信事務調査掛委員ヲ命ス

逓信省経理局印刷

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp